

次世代自動車戦略と素形材

阿部 容久 経済産業省 製造産業局 自動車課（自動車部品担当）

要約 地球環境問題及び資源制約に対するグローバルな関心の高まりから、自動車分野においても、更なる燃費向上、CO₂の削減、燃料の多様化及び次世代自動車の本格的な市場導入への要請が強まってきている。我が国の自動車及び関連産業は、これまで高い技術力を背景として世界市場に受け入れられ、国内においても経済・雇用等を牽引するリーディング産業としての役割を果たしてきた。しかしながら、上記の通り、グローバルな競争が激化していく中で、今後ともその役割を果たし続けるためには、その潮流に乗り遅れることなく、新たな産業や市場を創造し、獲得していくことが不可欠である。このような問題意識から、経済産業省では、この度、自動車や関連産業及び社会全体の中長期的な対応のあり方に関する新たな戦略を構築するために、平成21年11月より産官学のメンバーからなる『次世代自動車戦略研究会』を組織して検討を行い、平成22年4月12日に『次世代自動車戦略2010』としてとりまとめ、公表した。本稿では概要と次世代自動車の普及に伴う素形材産業の変化について述べる。

1. はじめに

地球環境問題及び資源制約に対するグローバルな関心の高まりから、自動車分野においても、更なる燃費向上、CO₂の削減、燃料の多様化及び次世代自動車の本格的な市場導入への要請が強まってきている。さらにグローバル化の流れの中で世界の自動車市場の多様化も進展しつつある。大型車で長距離移動の多い米国市場での燃費志向への変化、小型車ニーズの強い日本・欧州市場でのより一層の環境性能志向の進展等は、市場の特性毎に異なるパワートレインを用いた自動車ニーズが強まる可能性も高まっている。また、22年度中には最大の市場となることが見込まれる中国やインド等の新興市場においては、現在は低価格・小型乗用車を中心であるが、今後の経済成長や政府方針により、市場構造が変化する可能性も否定できない。こうした状況を背景に、短期・中期的には、引き続き、内燃機関系自動車が市場の太宗を占めると予想されるものの、ハイブリッドやクリーンディーゼル車、さらには電気自動車など次世代自動車を巡る競争は既に国際的に激化している。特に蓄電池廻りの開発競争が一層激化することが予想される。我が国の自動車及び関連産業は、これまで高い技術力を背景として世界市場に受け入れられ、国内においても経済・雇用等を牽引

するリーディング産業としての役割を果たしてきた。しかしながら、上記の通り、グローバルな競争が激化していく中で、今後ともその役割を果たし続けるためには、その潮流に乗り遅れることなく、新たな産業や市場を創造し、獲得していくことが不可欠である。このような問題意識から、技術開発やインフラ整備等の課題についての認識を共有し、自動車や関連産業及び社会全体の中長期的な対応の在り方に関する国家戦略を構築していくため、経済産業省では、この度、自動車や関連産業及び社会全体の中長期的な対応のあり方に関する新たな戦略を構築するために、平成21年11月より産官学のメンバーからなる『次世代自動車戦略研究会』を組織して検討を行い、平成22年4月12日に『次世代自動車戦略2010』としてとりまとめ、公表したところである。本稿では『次世代自動車戦略2010』の概要と次世代自動車の普及に伴う素形材産業の変化について述べる。

2. 次世代自動車戦略2010の全体像

「次世代自動車戦略2010」においては、以下のよう
な戦略を提示した。

- 6つの戦略
- 2020年・2030年の車種別の普及見通し・政府目標